

佐野城跡(佐野市)

築城年代:慶長7年(1602年)、築城者:佐野信吉

前方に見える木々の所が佐野城跡



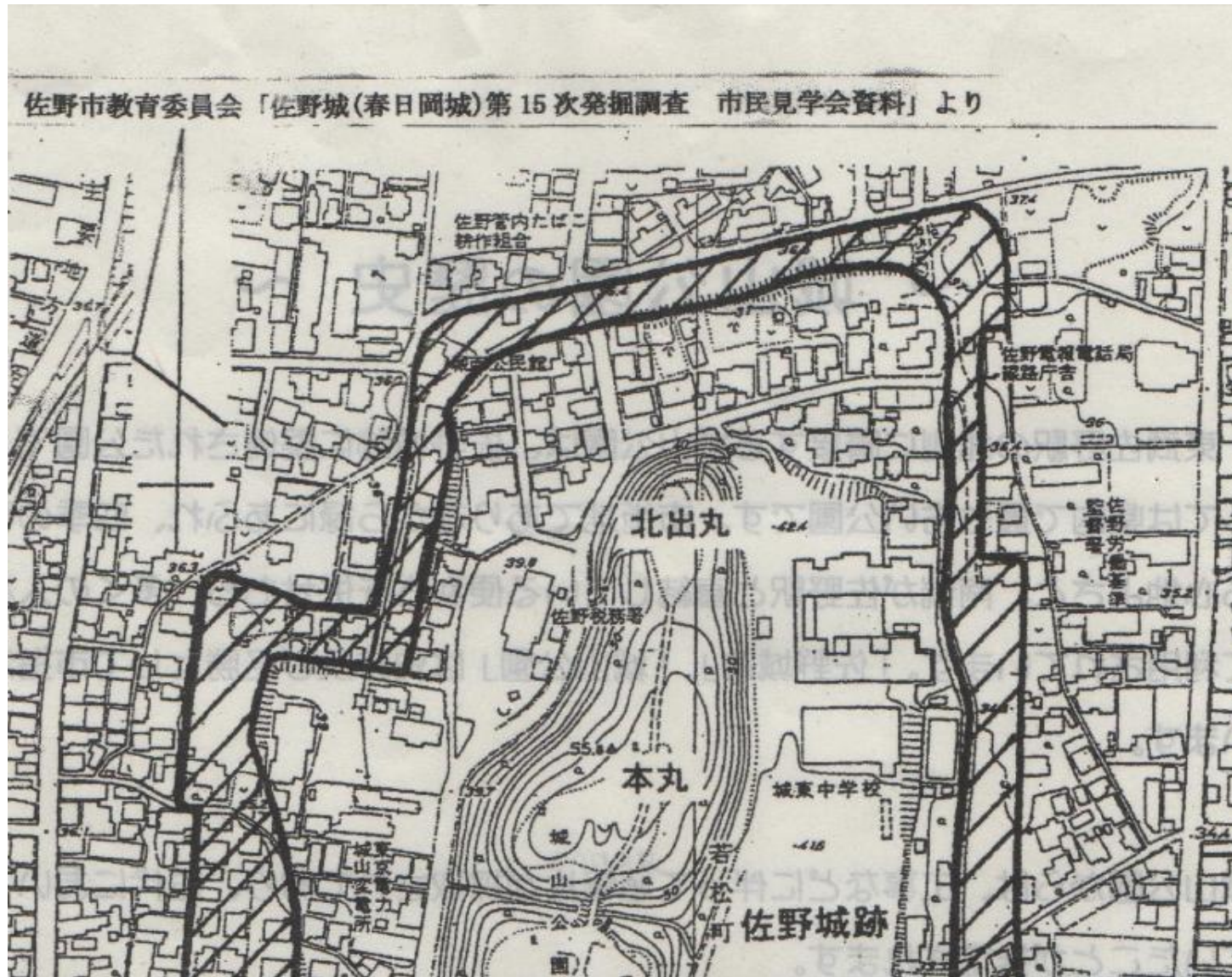
近づいて右手を見たところ/この城址を巡る道路が当時の内堀のようだ

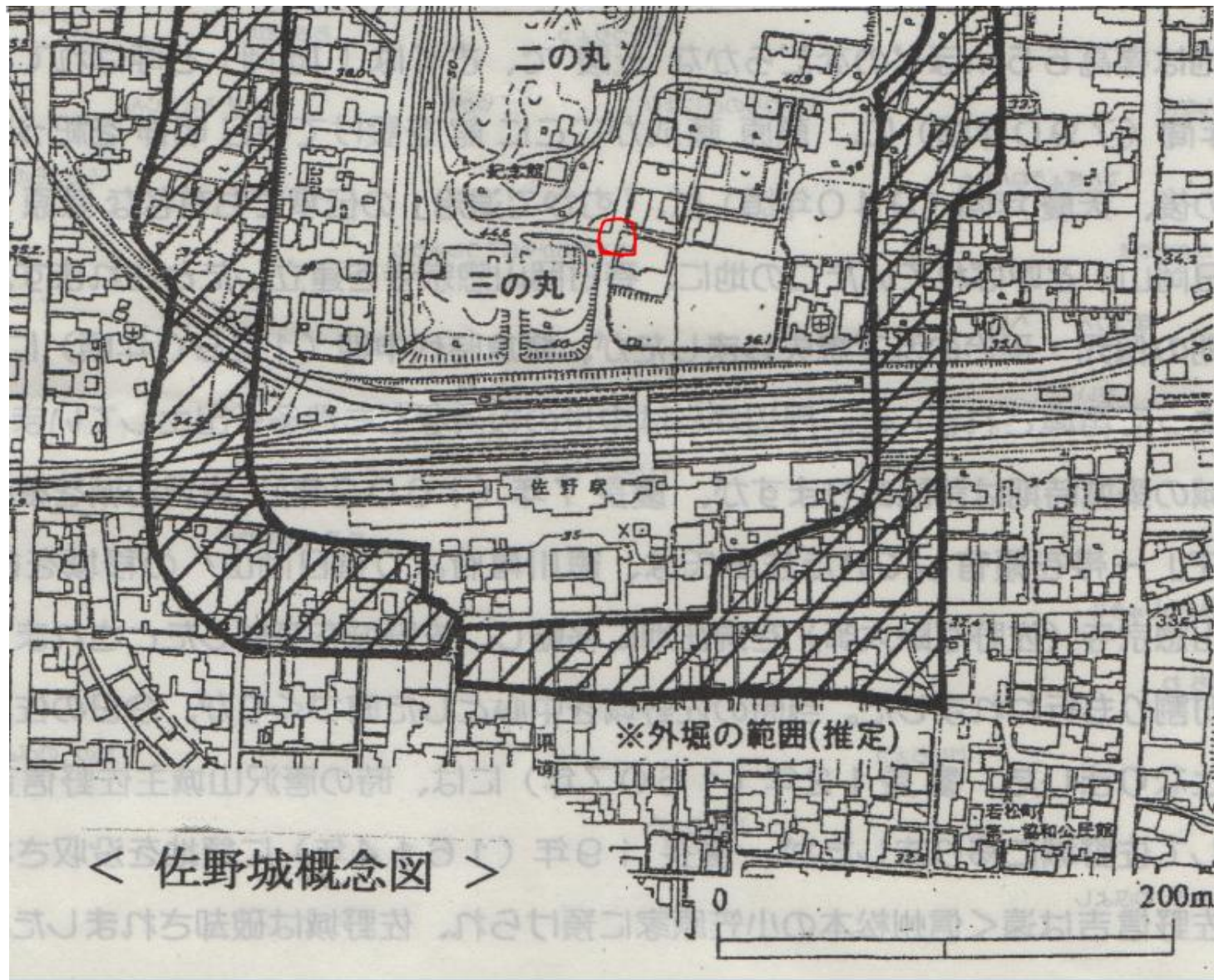


左手を見たところ



縄張図/赤丸の位置が下の写真の所





赤丸の位置で東側から西方向に見たところで、ここから佐野城址である公園に入っていける/この道はおそらく三の丸(左手)と二の丸(右手)との間の堀切跡に当たるのでは



手前の道路を南方向に進んで振り返って見たところ/左手が城址の公園だが、この道路は内堀跡で更に右手に外堀が城址を巡っていたようだ/内堀と外堀の間である右手一帯も佐野城の城域であった



公園の南東隅で左手を見ると線路に沿って道路があり、右手が城址の三の丸/この線路側のエリアも城域であった



右手のこの階段が公園への入口/この上が三の丸でこの辺りに大手虎口があったようだ



階段右手に立つ公園の標柱



これは公園の南西隅で北東方向を見たところ



左手の道路方向を見たところ



その道路を北方向に進んでみよう/右手は三の丸の北側の二の丸エリア



道路は城址に沿ってカーブしていく



右手は二の丸の北側にある本丸のエリア/前方に城址への登り口が見える



これがその登り口



北出丸(本丸の更に北側にある曲輪)と記されている



ここを登って行くようだ/このルートは北出丸からの搦手になるようだ



さて、更に道路を北方向へ進む/右手は北出丸



その先は東方向に回り込んでいる/右手は北出丸



するとすぐに城址の北東隅となり、南方向を見ると城址へ登る階段と左手に道がある



左手の道を進むと城東中学校の校庭となっている



さて、これは南側の公園入口の階段を上がって南側から北方向に三の丸を見たところ/この向こうが二の丸



左手を見たところ



井戸

三の丸の南部では、地表下1.5mの深さから石組みの井戸跡が発見されました。井戸は、内径が約1mですが、保存のため完掘せずに埋め戻したため、深さや底の状況は不明です。なお、井戸の北側20mほどの地点からは、城の馬出し部に巡ると思われる幅約10mの堀跡が確認されました。



右手を見たところ



振り返って南方向を見ると佐野駅の自由通路の入口がある/公園に直結しているのだ



さて、ここは三の丸から二の丸への虎口に当たる所/右手に説明坂が、左手に標柱が立っている



佐野市指定史跡・名勝 佐野城跡

佐野城は、別名‘春日岡城’とも言われ、その地名は、延暦元年(782)藤原藤成がこの丘に春日明神を祭ったことに由来すると伝えられています。慶長7年(1602)、唐沢山城主佐野信吉は、当時この地にあった惣宗寺(佐野厄除大師)を移転させるとともに、築城と町割を開始しました。

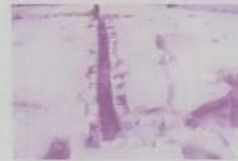
今日見られる佐野の街は、当時の佐野城を中心とした町づくりがその原形となっています。佐野氏は、慶長12年(1607)唐沢山城を廃してこの地に移りましたが、同19年(1614)所領を没収されて改易となり、築城後間もなく城は廃城となりました。

城は、独立丘陵を利用した連郭式の平山城で、南から三の丸・二の丸・本丸・北出丸と直線的に続く郭で築かれています。これら縄張の主郭部は、全体で東西110m・南北390mの規模を有し、それぞれの間は空堀で区切られ、内堀へと続いていました。現在、内堀から外堀の範囲は市街化が進み、完全に埋め立てられていますが、主郭部は当時の城割の姿を良好に留めており、貴重な歴史文化遺産として後世に伝えるべく史跡・名勝に指定されています。

建物跡
本丸の中央部からは、建物遺構が発見され、柱を支える礎石が断片的と等間隔に並べられていました。遺物は、南北西向・東西が概以上の規模で、本丸の主軸に関する施設であったと考えられます。この付近からは、積紋の磚瓦瓦がいくつも出土しており、当時佐野家は、貴族家と深いつながりであったことがうかがえます。

石組溝
二の丸の北部からは、東西・南北に走る石組溝が発見され、南北溝の一部はクランク状に折れ曲がっていました。本丸同様、二の丸でもすでに排水施設が整備されていたことがうかがえます。溝幅は約1m、深さは約10cm、南北17m以上の区間に及んでいました。また、この溝からは、溝部境の向付なども出土しています。

井戸
三の丸の南部では、地表下1.5mの深さから石組みの井戸跡が発見されました。井戸は、内径が約1mですが、保存のため完備せずに埋め戻したため、深さや底の状況は不明です。なお、井戸の北側20mほどの地点からは、城の掘出し部に落ちると思われる幅約10mの礎石が発見されました。



外堀
築城調査の結果、築城開始から筑城まで僅か12年の短期間ながら、近世城郭としての機能はすでに完備されていたものと考えられます。外堀は、東西300m・南北600m四方の城郭を取り囲み、最も広いところでは数十mに達していました。



石 罫
本丸の東部からは、地表下1.5mほどの地点から南側に石罫が築かれた遺跡が発見されています。この遺跡には、石罫が丁寧に敷き詰められ、本丸の堀へは階段が続いていました。なお、石罫には土が伴っており、排水施設と考えられます。



虎 口(にぐち)
本丸の南側からは、石罫で築かれた表形状の虎口が発見されました。この場所は、二の丸から堀を渡って本丸に入る出入口にあたります。当時、表形状の虎口は、堀が崩れ利用されないよう建物や石垣などによってつくられていたと考えられていましたが、発掘調査によってその遺跡の様子がわかりました。



水 堀
内堀と外堀の間に、東西へ延びる小規模な堀が発見されました。幅が約2.9m、深さは約2.2m、長さ約25m以上に及びます。断面形状はV字状で、いわゆる築堀と呼ばれる堀の形を呈していました。堀の断面には、柱穴が3つ一列に並んでおり、中からは柱の一部が露出して出土しました。その柱断面は、溝溝で文字も記されていました。



性格不明施設
三の丸の南側からは、一面に排水施設を伴った大型の遺構が発見されました。この施設は、東西15m、南北10mにも及び、周辺に水堀を掘らし、排水面を大きく凹地状に作り込んでいました。中からは、長軸に沿ってその中央部に、上部が扁平な幅1mもある大型石が、3m間隔で2つ並んで出土しました。



切岸(きりざい)と内堀
三の丸南側からは、佐野城の深い堀山を削り取って、石垣に替わる意匠を施すとともに、その上部に土を盛り出した切岸が確認されました。また、その南側には、内堀が切岸に沿って東西方向に発見されました。切岸から切岸上段までの高さ約4mあり、その上に、さらに約4mの厚土を持って佐野城を築き上げていたことがわかりました。

佐野市教育委員会 作製

佐野市指定史跡・名勝

佐野城跡

佐野城は、別名「春日岡城」とも言われ、その地名は、延暦元年(782)藤原藤成がこの丘に春日明神を祭ったことに由来すると伝えられています。慶長7年(1602)、唐沢山城主佐野信吉は、当時この地にあった惣宗寺(佐野厄除大師)を移転させるとともに、築城と町割を開始しました。

今日見られる佐野の街は、当時の佐野城を中心とした町づくりがその原形となっています。佐野氏は、慶長12年(1607)唐沢山城を廃してこの地に移りましたが、同19年(1614)所領を没収されて改易となり、築城後間もなく城は廃城となってしまいました。

城は、独立丘陵を利用した連郭式の平山城で、南から三の丸・二の丸・本丸・北出丸と直線的に続く郭で築かれています。これら縄張の主郭部は、全体で東西110m・南北390mの規模を有し、それぞれの間は空堀で区切られ、内堀へと続いていました。現在、内堀から外堀の範囲は市街化が進み、完全に埋め立てられていますが、主郭部は当時の城割の姿を良好に留めており、貴重な歴史文化遺産として後世に伝えるべく史跡・名勝に指定されています。

建物跡

本丸の中央部からは、建物跡が発見され、柱を支える礎石が整然と等間隔に並べられていました。建物は、南北四間・東西六間以上の規模で、本丸の主館に関わる施設であったと考えられます。この付近からは、桐紋の標込瓦がいくつも出土しており、当時佐野家は、豊臣家と深いつながりであったことがうかがえます。



石組溝

二の丸の北部からは、東西・南北に走る石組溝が発見され、南北溝の一部はクランク状に折れ曲がっていました。本丸同様、二の丸にもすでに排水施設が整備されていたことがうかがえます。調査された範囲だけでも、溝は東西16m・南北17m以上の区域に及んでいました。また、この溝からは、土器焼の向付なども出土しています。



井戸

三の丸の南部では、地表下1.5mの深さから石組みの井戸跡が発見されました。井戸は、内径が約1mですが、保存のため完璧せずに埋め戻したため、深さや底の状況は不明です。なお、井戸の北側20mほどの地点からは、城の馬出し部に通ると思われる幅約10mの堀跡が確認されました。



外堀

発掘調査の結果、築城開始から廃城まで僅か12年の短期間ながら、近世城郭としての機能はすでに完成されていたものと考えられます。外堀は、東西300m・南北600m四方の城郭を取り囲み、幅も広いところでは数十mに達していました。



石畳
 本丸の東部からは、地表面下1.5mほどの地点から、両側に石垣が築かれた通路が発見されています。その通路には、石畳が丁寧に敷き詰められ、本丸の主殿へは階段が続いていました。なお、石畳には側溝が伴っており、排水施設と考えられます。



虎口(こぐち)
 本丸の南部からは、石垣で築かれた扇形の虎口が発見されました。この場所は、二の丸から橋を渡って本丸に入る出入口にあたります。当時、攻城の際は、城が再び利用されないよう建物や石垣などはことごとく壊されてしまいましたが、発掘調査によってその雄姿の様子もわかりました。



水堀
 内堀と外堀の間に、東西へ延びる小規模な堀が発見されました。最大で幅2.9m・深さ2.2m、長さは25m以上に及びます。断面形はV字状で、いわゆる葉形堀といわれる堀の形をしていました。堀の南壁面には、柱穴が3つ一列間隔に並んでおり、中からは柱の一部が露らずに出土しました。その柱礎部には、墨書きで文字も記されていました。



性格不明施設跡
 道を挟んで三の丸の東側からは、一端に排水施設を伴った大型の遺構が見つかりました。この施設跡は、東西15m、南北10mにも及び、両辺に水抜き溝を巡らし、地表面を大きく凹状に掘り込んでいました。中からは、長軸に沿ってその中央部に、上面が真平らな径1mもある大型石が、3m間隔で2つ並んで出土しました。



切岸(きりざし)と内堀
 三の丸南東部からは、佐野城の硬い地山を削り取って、石垣に替わる急斜面とその上部に平坦な面を造り出した切岸が確認されました。また、その南側には、内堀が切岸に沿って東西方向に発見されました。地底から切岸上部までの高さは約4mあり、その上に、さらに約4mの盛土を行って佐野城を築き上げていたことがわかりました。

佐野市教育委員会 作製

標柱には「史跡 佐野城址」とある



虎口を二の丸へと進もう



この建物は万葉の里城山記念館





佐野城

別名、疑ヶ城、あるいは春日岡城ともいわれます。
 慶長7年(1602)、唐沢山城主佐野信吉は幕府の命令を受け、その後、ここに
 移りましたが、慶長19年(1614)、その領地を幕府に取り上げられたため廃城
 になったものです。城は独立丘陵を利用した平山城で、主要部は南より三の
 丸、二の丸、本丸、北出丸と造られ、それぞれ空堀で区切られています。
 現在、丘陵は公園となっていますが、外堀等の周辺部は開発が進み、駅や
 中学校、住宅地等になっています。



佐野近辺の城と館

佐野氏は戦国時代末から江戸時代初
 頭(今から約400年ほど前)にかけて、
 唐沢山城、次に佐野城を拠点として、
 現在の安藤郡とその周辺を支配してい
 ました。これは、当時の主要な城と館
 の位置を表したものです。



はつ くつ ちよう ま しょう きやう 発掘調査の状況



② 二の丸 旧城山記念館跡の発掘状況



③ 二の丸 竈穴と思われる場所
(中央にあるのは古銭)



④ 北出丸 竈跡と思われる建物跡



⑤ 北出丸 瓦の出土状況



⑥ 二の丸の西側堀部 大まきとの石垣



⑦ 本丸の西側堀部 大まきと西側の状況

はつ くつ ちよう ま しょう きやう 発掘調査の状況

佐野市教育委員会では、城山公園の整備に伴って、昭和63年度より発掘調査を行ってきました。
その結果、多くの貴重な発見があり、不明なことの多かった城の実態が、少しずつ解明されてきています。



① 本丸 石垣



② 本丸 石垣と石の石垣



③



④ 本丸 堀跡



さまざまな展示物があった



埴輪や和鏡もある/ここには古代に古墳があったらしい



板碑も



二の丸を南側から北方向に見たところ



これは二の丸南西側にある土塁



二の丸は池もあっていかにも公園と云う雰囲気

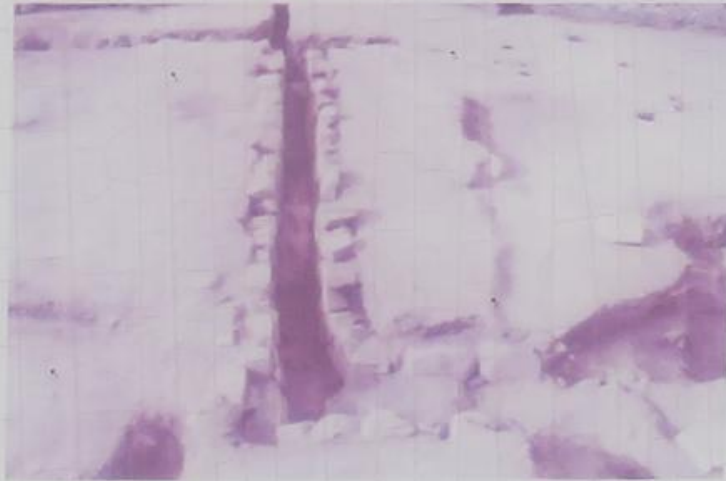


右手を見ると本丸へ渡る橋が見える/この二の丸北側付近では石組溝が発見されたと云う



石組溝

二の丸の北部からは、東西・南北に走る石組溝が発見され、南北溝の一部はクランク状に折れ曲がっていました。本丸同様、二の丸にもすでに排水施設が整備されていたことがうかがえます。調査された範囲だけでも、溝は東西16m・南北17m以上の区域に及んでいました。また、この溝からは、織部焼の向付なども出土しています。



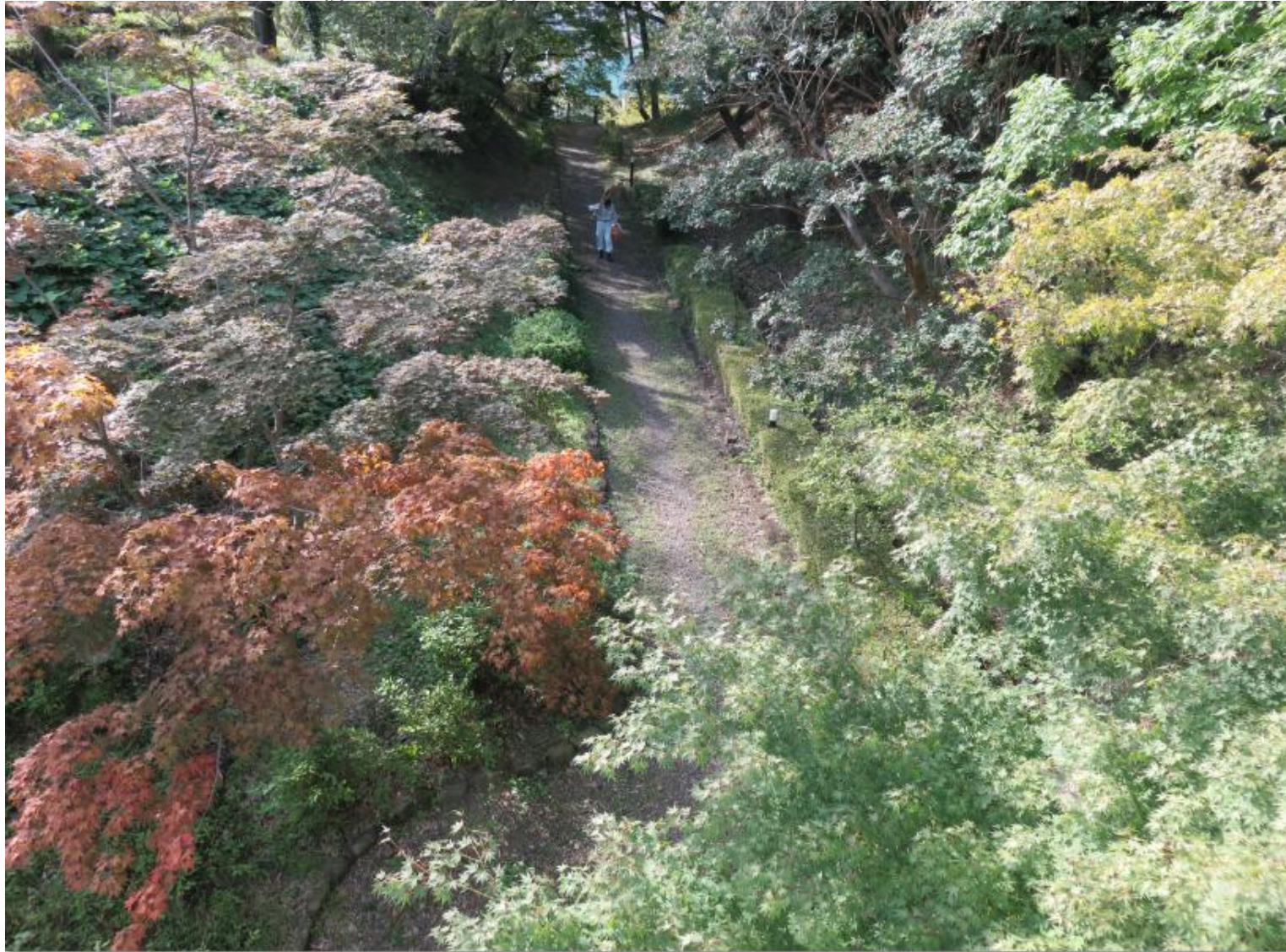
振り返って北側から南方向に二の丸を見たところ



さて、この橋を渡ると本丸



橋の上から左手を見たところ/これは二の丸と本丸の間にある堀切



同じく右手を見たところ



これは右手の堀底に下りて東側から西方向を見たところ



西方向に進んだところ/左手が二の丸、右手が本丸



その先はこのように下り落ちている



下の道路から振り返って堀切を見上げたところ



上に戻ろう



堀底を西側から東方向に見たところ



左手が本丸、右手が二の丸



その先はこのように下り落ちている



前方にグラウンドが見える



ここは城東中学校のグラウンド



そこで振り返って堀切を見上げたところ/左手が二の丸、右手が本丸



そこで左手を見たところ



右手を見たところ



さて、橋を渡るとここは本丸の虎口





虎 □(こぐち)

本丸の南部からは、石垣で築かれた榊形状の虎口が発見されました。この場所は、二の丸から橋を渡って本丸に入る出入口にあたります。当時、廃城の際は、城が再び利用されないよう建物や石垣などはことごとく壊されてしまいましたが、発掘調査によってその破却の様子もわかりました。

そこで振り返って二の丸方向を見たところ



これは本丸を南側から北方向に見たところ



前方は本丸の中央から北側付近でこの辺りに建物跡があったらしい



建物跡

本丸の中央部からは、建物跡が発見され、柱を支える礎石が整然と等間隔に並べられていました。建物は、南北四間・東西六間以上の規模で、本丸の主殿に関わる施設であったと考えられます。この付近からは、桐紋の棟込瓦がいくつも出土しており、当時佐野家は、豊臣家と深いつながりであったことがうかがえます。



これは本丸を西側から東方向に見たところ



これは本丸南西側で二の丸との間の堀切を見下ろしたところ



「松翠園」と記された石碑



本丸の東側に説明坂が立っている



佐野城本丸の石畳と石垣

平成四年度の発掘調査で、佐野城本丸から石畳の通路と石垣が発見された。

石畳は、東西二・六メートル、南北五・六メートルほどの範囲で確認され、東部には水路と思われる幅二〇センチ、深さ二〇センチの溝がある。

石垣は、最も良く残っている部分で、長さ六・四メートル、高さ一・四メートルで、いずれも細長い角礫かくれきを使用している。

この東斜面には井戸跡もあり、石畳と石垣は、ここへの通路の一部であった可能性が高い。

出土した石畳と石垣は、形状を損なうおそれがあり、保存のために埋め戻しを行なっている。

現在、埋め戻した石垣と通路に沿って、この付近から出土した石を並べている。

平成六年十月

佐野市教育委員会



① 本丸・石畳いしだたみ



① 本丸・石畳とわきの石組

正面が埋め戻した石垣と通路に沿って並べられたこの付近から出土した石



こな塩梅



その先は東側の斜面



その斜面のこの大きな窪みは井戸跡であろうか



これは斜面を下りてその辺りを見上げたところ



さて、本丸から更に北側の北出丸方向へ進もう



そこで振り返って北側から南方向に本丸を見たところ/この辺りに建物跡があったのであろうか



前方の北出丸の手前に橋がある



左手を見たところ/これは本丸と北出丸との間の堀切



右手を見たところ



ここが北出丸/南側から北方向に見たところ/右手前に説明坂がある





北出丸

この場所は「北出丸」あるいは「鐘の丸」といわれ、本丸の北側を
守る場所である。江戸時代の記録には

東西約三十六メートル

南北約五十四メートル

本丸との間の堀幅約十四メートル
と記されているが、建造物等の詳細
については不明であった。

平成元年に一部発掘調査が行なわ
れ、テラスが建設された場所には
岩盤をくり抜いた柱穴と思われる
遺構が発見され、多量の瓦も出土し、
「隅やぐら」（見張台）の跡とも
考えられる。また、西側の階段周辺
には、「搦手」（城の裏口）があつた
と考えられ、防御の点からも複雑な地形
を構成しており、重要な場所であつた
ことが確認された。

平成元年

佐野市

そこで振り返って北側から南方向に本丸方向を見たところ



さて、右手の堀底に下りて東側から西方向を見たところ



その先を見たところ/左手が本丸、右手が北出丸



このように道路まで下り落ちている/この下は北出丸からの搦手のルート



ここで右手から堀切が下って来た所と右手の北出丸からの搦手のルートと交わっている



そこから右手の堀切を見上げたところ



その先を見たところ/左手が北出丸、右手が本丸



西側から東方向を見たところ



その先を見たところ/左手が北出丸、右手が本丸



向こうに城東中学校の校舎が見える



これはそこで振り返って東側から西方向を見たところ



さて、ここが北出丸/南側から北方向に見たところ/前方のテラスの付近で隅櫓と思われる建物があったらしい



テラスにある石碑



テラスの脇にある石碑





④ 北出丸・隅櫓すみやぐらと思われる建物跡



④ 北出丸・瓦の出土状況

これは北出丸を北方向から南方向(本丸方向)に見たところ



そこで右手を見ると階段がある



このルートが搦手



その先はこのように下の道路に続いている



さて、ここは城址の西側の二の丸城壘下/説明坂が立っている





市指定史跡 佐野城跡

犬 いぬ

走 はしり

佐野城は春日岡城ともいわれ、唐沢山城主 佐野信吉が慶長七年（一六〇二）に幕府の山城廃止政策を受け、その後、ここに移ったが、慶長十九年（一六一四）に本領を没収されたため廃城になった。自然の丘陵を利用して造られた近世初頭の代表的な連郭式れんかくしきの城である。現在は公園として利用されているため、保存状態が良くその遺構いこうは各所に見ることがができる。

手前の道路はかつて内堀があつた場所で、この内堀に沿つた丘陵に幅一〜二メートル程の帯状の平坦部が造られていた。さらに、この五〜六メートル上にも同様な遺構が存在していると想定され、通路のような形態から犬走と呼ばれている。犬走の役割としては通路以外に、内堀からはい上がつて城へ侵入する者を犬走上から槍等やりにより攻撃することや、犬走に上がられても、その上の犬走から攻撃するという、防衛施設として堀の機能を強化する点もあげられる。同様な遺構は大阪城等にも見ることがができる。

この犬走は、昭和六十三年度の急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査により確認されたものであり貴重な佐野城の遺構であるため、その一部を保存整備したものである。

平成元年九月

佐野市教育委員会



⑤ 二の丸の西側裾部・犬走りの状況



⑥ 本丸の西側裾部・犬走りと内堀の状況

さて、ここは城址(右手)の東側で北側から南方向を見たところで、ここで左手と右手に大きな段差がある



反対に南側から北方向を見たところ/左手が城址/右手の下がった所が外堀だったようだ



外堀

発掘調査の結果、築城開始から廃城まで僅か12年の短期間ながら、近世城郭としての機能はすでに完成されていたものと考えられます。外堀は、東西300m・南北600m四方の城郭を取り囲み、幅も広いところでは数十mに達していました。

さて、これは城址の南側で佐野駅の自由通路の下を見たところ



正面の斜面付近で切岸や内堀が確認されたようだ





切岸(きりぎし)と内堀

三の丸南東部からは、佐野城の硬い地山を削り取って、石垣に替わる急斜な崖とその上部に平坦な面を造り出した切岸が確認されました。また、その南側には、内堀が切岸に沿って東西方向に発見されました。堀底から切岸上面までの高さは約4mあり、その上に、さらに約4mの盛土を行って佐野城を築き上げていたことがわかりました。

佐野市教育委員会 作製

参考ホームページ

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/004tochigi/011sano/sano.html>

<http://yogoazusa.my.coocan.jp/sanosi.htm#sano>

<http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Tochigi/Sano/>

<http://kahoo0516.blog.fc2.com/blog-entry-56.html>

<http://www.asahi-net.or.jp/~qb2t-nkns/sano.htm>

<https://ameblo.jp/castle-manabu/entry-11592966441.html>

<http://www.geocities.jp/sanooyaji05/sanojyo01.html>

<http://tutinosiro.blog83.fc2.com/blog-entry-3159.html>

<http://srtutsu.ninja-x.jp/shiro442.html>

<http://www.obayoshi30.com/Sanojo.html>

<http://castlejp.web.fc2.com/02-kantoukoushinetsu/72-sano/sano.html>

